

**令和7年度
運営に関する計画
(中間評価)**

大阪市立五条小学校

令和7年11月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校の地域・保護者の教育に対する意識は大変高く、多くの児童が何らかの習い事に通っているということもあり、全国学力・学習状況調査等の学力調査においては、常に全国平均を上回っている。しかし、平均を大きく下回っている児童も数多く存在するなど、学力の二極化が顕著である。また、知識量が豊富な児童が多いにも関わらず、その知識を活用し表現する活動に対しては、学齢が上がるにしたがって苦手意識が強くなる傾向がある。

一方、この十数年で児童数が1.5倍増加しており、急激な児童数の増加の影響で、数年間学校内に空き教室といった余剰がなく、学校生活を送る上での環境は決して恵まれていない状態である。令和3年度に西校舎が完成したことで若干改善はされたが、通常学級が28学級あるので、講堂をはじめ、特別教室の配当時間は各学級週1時間しかない。運動場に関しても、体育学習時は複数学級での使用、休み時間時は学年毎の使用にするなど、のびのびと活動させることが非常に難しく、結果、体力・運動能力調査の数値は十分とはいえない。互いに十分な距離を取ることができず心身の摩擦が強くなり、ちがいを認めることが難しかったり相手の立場に立つことが苦手だったりする児童が多いことから、攻撃的な言動が飛びかい、大きなトラブルとなることが少なくない。一人ひとりを鑑みると「自分にはいいところがある」「将来に夢がある」「人の役に立ちたい」と思っている児童は大阪市の平均を大きく上回っているが、「学校生活の充実」という点については受け身であるという傾向が見られる。「楽しませてもらう」から「自ら楽しい集団にする」という意欲を引き出し、よりよい集団を作っていくことが今後の課題である。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

・基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現

○令和7年度の全国学力・学習状況調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。

○令和7年度の全国学力・学習状況調査の「学校へ行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。

・基本的な方向2 豊かな心の育成

○令和7年度の校内調査の「友だち一人ひとりのちがいを大切にしている」の項目について、肯定的に答える児童の割合を90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

・基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上

○令和7年度の小学校学力経年調査の平均正答率5割以下の児童を、いずれの学年も令和3年度より3ポイント減少させる。

○令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について、肯定的に答える児童の割合を85%以上にする。

・基本的な方向5 健やかな体の育成

○令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動やスポーツをすることが好きですか」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を70%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

・基本的な方向6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進

○令和7年度末の校内調査の「日々の授業で学習用端末を活用して、学習をしている」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を90%以上にする。

・基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり

○ゆとりの日については、週1回以上設定する。学校閉庁日については、夏季休業中は3日以上、冬季休業中以外の休業期間においては1日以上設定する。

○令和7年度末の教職員アンケートの「校内研修を充実させるために、主体的に行動したか」の項目について、肯定的に答える教職員の割合を10ポイント向上させる。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学校へ行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。また肯定的に回答する児童を95%以上とする。
- 小学校学力経年調査における「自分には、良いところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の小学校学力経年調査の「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を45%以上にする。また肯定的に答える児童の割合も含めると85%以上にする。
- 令和7年度小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることが好きですか」に対して、最も肯定的な回答をする児童の割合を70%以上にする。また肯定的な回答をする児童の割合を88%以上にする。
- 校内調査の「けがや病気に気を付けて、学校生活を送ることができている」という項目について、肯定的な回答をする児童の割合を93%以上にする。
- 「食に関する指導」の事後のアンケートにおいて「バランスよく食べようとしている」という項目について肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。
- 「学校園における働き方改革推進」に掲げる、教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合を90%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

--

大阪市立五条小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>○令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学校へ行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を87%以上にする。</p> <p>○令和7年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。また肯定的に回答する児童を95%以上とする。</p> <p>○小学校学力経年調査における「自分には、良いところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を84%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活指導連絡会や生活指導部会等を通して、日々の子どもたちの様子についての共通理解をより深め、情報を共有し、それに応じた教育活動を進め、児童が安心・安全に過ごすことができる環境体制を整える。 「いじめを考える日」をはじめとして、人権教育部とも連携を図り、「いじめを絶対に許さない」を共通認識のもと児童が安心して通える環境づくりに努める。 児童会活動等さまざまな取り組みを、児童中心に進めていく。学校や子どもたちの実態にあった取り組みを検討した上で、さらに異学年交流等を増やす。上級生を中心に、学校全体で取り組むことで、より主体的に学校行事にかかわり、自ら楽しい集団にする態度を育てる。 	A
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活指導連絡会等にあげられた課題を全体で共有し、解決につなげるための部会を原則月1回以上実践する。 1学期の「いじめについて考える日」をはじめ、人権教育部との連携を図り、「いじめ」について、児童とともに考える場を年間1回以上設ける。 色別集会、五条まつり、卒業おめでとう集会など、昨年度の取り組みを見直しながら実施する。 	
<p>取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校内の人権課題に向かって、人権集会を基軸として、児童の実態に応じた人権教育を進めていく。月1回の人権教育部会で実態や取り組みについて共有したり、人権教育の授業準備を進めたりするなかで教員自身の人権感覚も養っていくことで、自他共によさを認め合える児童の育成に努めていく。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 学期に1回（年3回）の人権集会を計画的に行う。 校内調査で「がんばった時、先生はほめてくれる」という項目について肯定的に答える児童の割合を91%以上にする。 	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>取組内容①</p> <ul style="list-style-type: none"> 中間評価アンケートの「学校へ行くのは楽しいと思いますか」の項目については肯定的回答が93%となっている。「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思います

か」に対して最も肯定的な回答する児童の割合が 91%、肯定的に回答する児童を含めると 99%であった。

- ・生活指導連絡会では、共有すべき事柄を、学校全体で共通理解し、全員で対処していく環境を整えている。
- ・いじめを考える日では、二回に分割して実施した。1回目は、全校児童に「どんなことがいじめであると思うか」という旨のアンケートをとった。そのアンケート結果から、より本校の実態に沿ったいじめの状況を焦点化し、劇にして提示することで、いじめは絶対に許さないという思いに迫ることができたと考えられる。
- ・児童会活動では、児童が話し合った内容を Teams を利用して全児童で共有している。五条まつりや色別集会では、事前に吸い上げた児童の思いを踏まえ全体の計画を立て、当日の運営に反映することで、児童が責任感を持って主体的に活動することにつながるような工夫をしている。このように縦割り班活動を充実させたことで異学年同士の交流が生まれ、自信や思いやりの心を育てることができている。

取組内容②

- ・2学期の人権集会では、「うれしかったこと」を全校児童から募集し、その内容を人権集会で反映させることで、児童は興味をもちながら進めることができた。学級指導の時間を多く設けることで、学級の実態に焦点を合わせて考えを深めることができた。人権教育の準備をするなかで学級や学年の人権的課題に向き合ったり、月1回の人権教育部会での校内の課題や実態に応じた人権教育の実践を共有したりすることで、教員自身も人権感覚を養う時間となっている。
- ・学年団が中心となって児童の状況や課題等を学年打ち合わせ会等で把握し、月1回の生活指導連絡会において教職員全体で共有することで、多くの目で児童を見守っている。また授業中や休み時間にも職員ができるだけ児童の近くにいる体制を作ることで児童が安心して学校生活を送れていると考えられる。その結果として校内調査における「がんばった時、先生はほめてくれる」という項目について肯定的に答える児童の割合が 93%と、目標の 91%を上回ることができている。

下半期に向けての改善点

取組内容①

- ・生活指導連絡会の在り方として情報の共有が中心となっているが、下半期は共有した情報を踏まえて、児童の実態に応じた何らかの取り組みを考えていく場とすることをめざしていく。
- ・いじめを考える日はきっかけであり、いじめに対してはつねに高いアンテナを張りつつ防いでいくことが重要である。また、心の天気を活用し、困りごとを抱えている児童を早期発見し「いじめは絶対にしてはいけない」という肯定的な回答をする児童が 100%になることを目指していく。
- ・たてわり班活動では、グループで仲良くなるという目的意識をもって、つながりを深めることができるように活動内容を工夫していく。

取組内容②

- ・学年の課題や目標達成に向けた人権集会の在り方について検討が必要であること。
- ・人権集会の内容を今後の学校生活に生かしながら継続的な意識づけをすること。
- ・校内調査における「自分にはよいところがありますか」という項目について肯定的に答える児童の割合が 85%と昨年度の経年調査における同項目の数値より上回っているが、否定的に答える児童の割合がどの学年も 1割以上いるという状況である。人権教育だけでなく、各教科・領域において自己肯定感を高める取り組みや環境作りをしていく必要がある。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>○令和7年度の小学校学力経年調査の「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を45%以上にする。また肯定的に答える児童の割合も含めると85%以上にする。</p> <p>○令和7年度小学校学力経年調査における「運動やスポーツをすることが好きですか」に対して、最も肯定的な回答をする児童の割合を70%以上にする。また肯定的な回答をする児童の割合を88%以上にする。</p> <p>○校内調査の「けがや病気に気を付けて、学校生活を送ることができている」という項目について、肯定的な回答をする児童の割合を94%以上にする。</p> <p>○「食に関する指導」の事後のアンケートにおいて「バランスよく食べようとしている」という項目について肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向3 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、国語科を中心に授業改善に取り組み、教員の授業力向上を図る。 ・児童が自分の考えを深めたり、広げたりすることができるような授業を構築できるよう、研究部会や指導案検討会を計画的に実施し、国語科の学習指導案の検討を行う。 ・各教科において、単元や題材に即したペアやグループでの話し合いや学習したことを振り返る活動を取り入れることで、児童が興味や関心をもって学習に取り組めるようにする。 	A
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した国語科の授業研究・討議会を各学年で年1回以上実施する。 ・研究部会・指導案検討会を年間に6回以上実施する。 ・対象教員による1人1回の公開授業を2学期末までに実施する。 ・GNP研修を中心に校内研修を年間10回以上実施し、教員の指導力向上を図る。 	
<p>取組内容②【基本的な方向4 健やかな体の育成】（体育）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の体力・運動能力の向上を目指し、狭い校庭でも子どもたちが十分に体を動かすことができる活動を模索し、運動量確保、技術の習得に努めていく。 ・子どもたちがより多様な種目に取り組めるよう、体育の学習の年間指導計画をもとに、計画的に授業を実施し、運動の楽しさを伝えるように努めていく。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育カードを各学期1枚児童に配布する。 ・各学年、年間2単元以上ICT機器を活用した授業を行う。 ・ICTの活用方法の共有など、教員に向けた体育研修会を年に3回以上実施する。 ・各学年の年間指導計画をもとに、見通しをもって授業を行う。 	
<p>取組内容③【基本的な方向4 健やかな体の育成】（保健）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事故やけがが起きる要因を理解し、安全に学校生活を過ごすことができるようにする。 ・自分の身体に関心を持ち、けがや病気を予防するための基本的な生活習慣を発達段階に応じて身につけることができるようにする。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年に1回、学校保健委員会を開催する。 	

<ul style="list-style-type: none"> ・健康委員会児童による「けがなくし隊」が校内を巡回して声掛けを実施したり、放送やポスターを作成したりして校内安全の啓発活動を実施する。 ・年に2回以上、「健康週間」を実施する。 ・毎月ほけんだよりを配布して、児童だけでなく保護者へもけがや病気の予防について啓発する。 	
<p>取組内容④【基本的な方向4 健やかな体の育成】(給食)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食や健康への関心を持ち、バランスよく食べようとする食習慣を身につけることができる。 ・食べ物の3つの働きとそのグループの食べ物が分かるようにする。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年において、年2回発達段階に応じた食に関する指導を行う。 ・日々の給食において、食についての動画を視聴する。 ・「食育月間」を6月、「給食週間」を1月に実施する。 ・9のつく日に「給食残さないデー」を設定する。 	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

<p>取組内容①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的で深い学び」の構築を目指し、計画的に校内研究を進めている。これまでに国語科の授業研究・討議会を4学年で実施し、残りの2学年も計画通り実施できる見込みである。授業研究に向けての指導案検討会は6回実施し、研究の視点に沿ってよりよい授業になるよう議論を行った。授業研究討議会では、ビデオ撮影された授業の様子を見てグループで討議し、全体で意見交流を行っている。その後スクールアドバイザーからの指導助言を受けることで、授業改善に学校全体で取り組んでいる。 ・本年度の研究の重点を「主体的に課題に向き合う『読みのめあて』」、「対話的で深い学びにつながる『話し合い』」、「考えを深めたり広げたりする『振り返り』」の3つとし、実践を進めている。9月実施の学校アンケートにおいて、「学習中、友だちと話し合うことで考えが深まったと思うことがありますか。(友だちと一緒に学習するのは楽しいですか。)」という質問に最も肯定的に回答した児童の割合は59%であった。国語科を中心に各教科において、児童が主体的に問題解決に取り組めるような学習課題を設定したり、ペアやグループ、学級全体での話し合い活動や、学習の振り返りを授業に取り入れたりすることを通して、児童が主体的で対話的な学習に取り組むことができていると考えられる。
<p>取組内容②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内調査において、1～3年生の「運動は好きですか」、4～6年生の「運動やスポーツは好きですか」に対する最も肯定的な回答をした児童は全体で71%と目標の70%を上回っている。全市共通目標の対象となっている小学校学力経年調査の実施学年である3～6年生に限ると、67%となっているが、前年度の63%よりは上昇している傾向にある。これらは運動場で遊べる時間が増えたことや、プールの期間を延ばしたことが要因として考えられる。10月以降は気候が良く過ごしやすくなるので、引き続き休み時間に運動場で遊ぶことに加え、各学年、体育科の学習方法を工夫することで成果につなげていきたい。 ・体育カードに関しては、2学期に器械運動カード、縄跳びカード、3学期に持久走カードを配布する予定である。 ・今年度は、スポーツテストの測定に関する研修、シナプソロジー研修を行った。今後も計画的に実施する予定である。 ・年度初めに各学年の年間指導計画を作成し、それを参考に授業を行っていることで、計画的に授業を行うことができている。授業内容によってはICT機器も利用しながら授業を進めている。
<p>取組内容③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、毎月の保健だよりを継続して配布し、児童や保護者に向けて、けがや病気の予防に関する情報提供や啓発を行っている。また、健康委員会による「けがなくし隊」の活動では、校内巡回による声かけや放送を実施し、健康委員会が作成したポスターを保健室前に掲示するなど、児童主

体の安全啓発活動を展開した。これらの取り組みを通して、児童の安全意識や健康に対する意識が着実に高まっている。

- ・学校アンケートでは「けがや病気に気を付けて学校生活を送ることができていますか」という問いに対し、今年度は94%の児童が肯定的と回答しており、昨年度の93%から1%向上したことから、児童の安全意識や健康行動がさらに定着してきていることが確認できた。
- ・学校保健委員会については2学期後半に開催を予定しており、健康週間についても1回目を今後実施予定である。

これらのことから、児童の主体的な活動や継続的な啓発を通じて、年度目標に向けた進捗状況は概ね順調であると考えられる。

取組内容④

- ・9のつく日の「給食のこさないデー」では、給食委員会の児童により放送を行ったり、児童が作成したポスターを各学級へ配布したりした。また、6月の「食育月間」では、全学年で個人別に給食チャレンジカードを実施した。1月の「給食週間」については、給食委員会で取り組む予定で準備を行っている。また、給食の残食率は継続的に月平均5%を切っており、給食を残さず食べようとする意欲が高まっていると考えられる。
- ・日々の給食指導での動画に、食べ物の3つの働きとそのグループの食べ物のクイズを取り入れ、日ごろから食べ物の3つのグループについて親しめるようにしている。その他、給食カレンダーを各学級へ配布したり給食室前に掲示したり、いつでも確認できるようにしている。
- ・各学年への食に関する指導は、順次行っているところである。

下半期に向けての改善点

取組内容①

引き続き、児童が主体的で対話的な学習に取り組むことができるよう、国語科を中心に授業改善に取り組んでいく。また、1月の天王寺区教員研究発表会に向けて、校内研究の成果と課題をまとめていく。対象教員による1人1授業の公開を2学期末までに実施できるよう、教員への周知を行う。

取組内容②

児童に運動することを促すだけでなく、教職員も一緒に運動することを行っていく。新たな体育カードを取り入れたり、ICT機器を効果的に活用したりすることで児童の興味関心を引き出していく。

取組内容③

- ・アンケートでは94%と高い割合で肯定的な回答が得られ、昨年度の93%からも向上しているが、残り6%の児童には安全や健康への意識が十分浸透していない可能性がある。今後は、発達段階に応じた取り組みを工夫して行っていく。
- ・保健だよりについても、季節や学校で実際に起きたけが、病気の事例に即した内容を取り上げ、児童一人ひとりが自分ごととして意識できるよう改善を図っていく。さらに、けがなくし隊など児童主体の活動の効果を実感できるよう、成功事例や工夫点を共有していく。

取組内容④

- ・残食率は継続的に月平均5%を切っていて、おかずは残食率が低い傾向であるが、米飯やパン、牛乳の残食率は高い傾向にある。また、おかずの中でも魚や豆の献立の残食率は高い傾向にある。そのため引き続き食に関する知識を身につけ、バランスよく食べようとする食習慣を身につける必要がある。
- ・食や健康への関心が高まるよう、今後も食についての動画を日々視聴するだけでなく、「給食のこさないデー」や「食育週間」について取り組み、学級担任のクラスでの声掛けも引き続き行っていく。

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>○授業日において、児童の8割以上が学習用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。</p> <p>○「学校園における働き方改革推進」に掲げる、教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合を90%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向5 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童が「心の天気」を毎日入力し、教員が確認することで、児童の現状把握に努める。 写真や図を用いたスライドの作り方・発表の仕方において、各学年の実態をふまえて系統立てた指導を進める。 前年度に行った効果的な実践を伝達し、今年度に生かすことができるようにする。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習用端末の使用率を平均85%以上にする。 指導計画をもとに各学年で1回以上、写真や図を用いたスライドを作って学習する。 前年度の実践をまとめた引き継ぎ簿を作成する。 	
<p>取組内容②【基本的な方向6 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員一人一人のスキル向上のためにGNPを中心に必要な研修を計画・実施する。 放課後の会議、打ち合わせをより効率的に行うために、事前の準備を確実に行う。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> GNPを中心に校内研修の場を年6回以上実施する。 職員はおそくとも19時に退勤する。また水曜日は18時とする。 	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>取組内容①</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童が朝、心の天気を入力する習慣は、定着しつつある。しかし学習用端末使用率は、現時点で平均76.3%と、昨年度の同時期の80.8%より4.5%低くなっている。年間目標である「授業日数に対する、児童の8割以上が学習用端末を活用した日数の割合」については、現時点で15.8%となっており、目標の50%以上を大きく下回っている。 本校独自に作成したICTカリキュラムをもとに、各学年実践を進めている。しかし、心の天気の入力率に対し、SKYMENU Cloudの活用率が低く、学習において自分の考えを表現するためにSKYMENU Cloudを十分に活用できているとは言い難い。 学習用端末の活用が進まない背景には、学習用端末のリース期限を迎える今年度、端末の不具合が頻発していることが大きな原因として挙げられる。端末の不具合対応を迅速に行った結果、令和7年度に入り、現在まで約100台の不具合機を交換している。交換にまでは至らず、担当教員がその場で対応し復帰できた端末を加えると、今年度の不具合対応件数は200台を超える。これは平均して毎日2台の端末に新たに不具合が発生している計算になる。 前年度の実践を伝達する引き継ぎ簿を作成し、今年度の指導に生かしている。

取組内容②

業務の総量が変わらない状態での勤務時間の縮減が難しい中、少しでも職員の多忙感をなくしていくために、職員の意識の共有、個々のスキルの向上などを旨として、「研修」や「打ち合わせ」をより大切にしてきた。

- ・ GNP 研修については、年度当初に職員に対して、今年度どのような研修を行っていきたいか調査をした上で、計画的に研修を実施している。今年度はすでに 6 回実施しており、今後も職員のスキル向上のために実施していく予定である。
- ・ 働き方改革推進のために、学年打合せ簿や放課後の会議の効率化等で、それぞれの教育活動を実施するにあたっての、準備や打ち合わせの時間の捻出につとめてきた。その結果、退勤時刻に対する意識が高まり、最終退勤時刻が早まっている。

下半期に向けての改善点

取組内容①

- ・ 心の天気については、引き続き習慣的に入力できるようにしていく。
- ・ 12 月に導入される新しい学習用端末に対し、ICT 部会等で使用方法の研修及び実践報告の共有を行い、学習への活用へとつなげていく。
- ・ 自分の考えを表現する手段として、SKYMENU Cloud の発表ノートや PowerPoint を活用し、写真や図を用いたスライドを作る学習を計画的に実施していくことが必要である。
- ・ 今年度の実践を次年度へ生かせるよう、年度末に引き継ぎの資料を作成する。

取組内容②

退勤時刻に対する意識は高まりつつあるものの、職員の 19 時退勤（水曜日は 18 時退勤）が十分に達成できているとは言い難い状況である。職員のスキル向上と業務の平準化を継続して進めていく必要がある。